

横浜正金銀行 第7期

マイクロフィルム版

編集：武田晴人（東京大学教授）

16 ミリマイクロフィルム 全68 リール セット特価¥1,360,000（税別）

第7期の構成（価格はいずれも税別）

- 第1集：中国 1 43リール (Reel No. 842-884) 分売価 ¥989,000
- 第2集：中国 2 23リール (Reel No. 885-907) 分売価 ¥529,000
- 第3集：中国 3 2リール (Reel No. 908-909) 分売価 ¥46,000



通貨戦からみた日中戦争

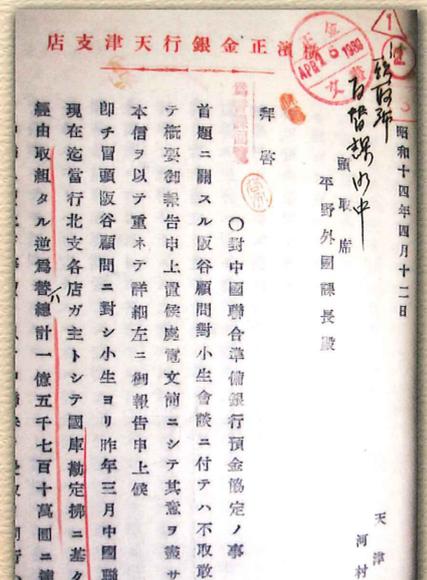
京都大学人文科学研究所教授 籠谷直人

このたび、横浜正金銀行資料（マイクロフィルム版）の第7期が、「中国所在支店関係」を内容にして、公開・刊行される。とくに、日中戦争後を対象とする戦時期の文書群が収められている。中国の幣制改革（1935年11月）をうけて、日本は、法幣との激しい通貨戦を、華北や華中で展開する。本資料は、そうした実態を伝えてくれるはずである。

華北では、1938年3月に中国聯合準備銀行（北京—以下、聯銀）が設立された。聯銀は、中国系主要銀行（中国、交通、河北省など）と、日本の傀儡政権であった「中華民国臨時政府」（王克敏）が出資しており、後者の臨時政府の出資分には、朝鮮銀行、興業銀行、横浜正金銀行が参加した。聯銀券は、華北での通用性が少ない朝鮮銀行券を回収しながら、軍事費を調達するべく、発行された。そして、華北に流通した法幣を回収して、外貨準備を取り付けることで、幣制改革後の法幣の基盤を崩すことを企図した。多田井喜生氏が指摘されたように（『大陸に渡った円の興亡』下、東洋経済新報社、1997

年、第12章）日本の北支方面軍は、聯銀券を調達するときには、朝鮮銀行北京支店が、自行の聯銀名義の円預金口座に記帳し、同じく聯銀が自行の朝鮮銀行名義の聯銀券預金口座に同額を記帳すれば、聯銀預け金を軍事費として調達することができた。聯銀と朝鮮銀行との「預け合契約」とよばれた工作であった。今回の文書類には、朝鮮銀行と横浜正金銀行との間に、中国の地域を対象にした、業務調整がなされていたことを伝えるものが残されているようである。こうした聯銀券との「預け合」工作に、為替業務の実行機関であった横浜正金銀行が、どの程度関わっていたのか、興味のあるところである。

華中では、日本銀行券が、ついで軍票が使われた。軍票の価値を維持するために、「軍需交換用物資配給組合」が設立された。日本から物資を供給することで、軍票に購買力を持たせることを企図した。上海への物資輸入為替の取り組みは、横浜正金銀行経由でなされた。同組合については『戦時華中の物資動員と軍票』（中村政則、高村直助、小林英夫編著、多賀出版、1994年）の研究が刊行されている。そして、華中では、1939年5月に、「中華民国維新政府」と日本側銀行によって、「華興商業銀行」（上海）が設立された。華興券は、法幣と等価（対英8ペンス）であり、法幣の外貨獲得機能を奪取することを企図した。しかし、外国銀行が外貨売りを中止してから、法幣が下落したために、華興商業銀行は、法幣との等価をやめて、対英為替相場を6ペンスに固定した。それゆえ、割高な華興券は、法幣に代替することは出来なかった。しかしながら、1939年9月以降に、上海税関の収税事務を、横浜正金銀行が握ると、華興券による納税を義務付けることで、発行が続けられたという。華中における軍票の価値の維持や、華興券の発行の実態も、本資料の公開をえて、より深く研究されることが期待できよう。



横濱正金銀行 マイクロフィルム版

編集：武田晴人（東京大学教授）

第1期 227リール セット特価 ¥4,540,000

わが国の明治以降の対外金融史を詳細・網羅的に示す未公開資料の復刻であり、為替金融の諸刻面を明らかにするほか、組織の機構・人事・諸事務規程、あるいは銀行全体に関わる業務上の法律問題・内外商慣習・事務手続き・要注意事項・主要取引先に関する業況、営業成績概観などが明らかと成る。

第1期補遺 49リール セット特価 ¥980,000

第1期の第5集（通達・通報）と第6集（調査資料ほか）の補遺。

第2期 156リール セット特価 ¥3,120,000

倫敦・紐育という世界の2大金融センターにおける横濱正金銀行の活動を知ることのできる両支店の報告書、本店との往復書類、決算書などを中心に、欧米支店を主とする支店資料からなっている。

第3期 163リール セット特価 ¥3,260,000

上海・大連両支店を中軸とした中国関係の資料と対中国借款関係資料の一部を収録する。併せて先に出版された「横濱正金銀行 第2期」の各支店関係資料と関係の深い資料も収録。

第4期 151リール セット特価 ¥3,020,000

明治後半期から両世界大戦間期にかけて、横濱正金銀行が関わった対中国関係の借款関係資料を第3期に引き続いて収録するとともに、対外投資に関わる諸資料、主として戦時期にかけての欧米支店を中心とする対外協定関係の書類綴りを収録している。

第5期 121リール セット特価 ¥2,420,000

欧米支店関係の対外協定資料、半期の決算報告書、決算書とりまとめのために作成された各種の決算関係諸表、敗戦後に東京銀行に営業譲渡する際の引継ぎ時に作成された書類、各地に展開している支店の景況報告及び、期末勘定書と、ロンドン、ニューヨーク、パリの各支店に関して新たに見出された日誌等の資料群など、これまでの資料に追加し、これを補完する関係にあるものということができるが、譲渡関係書類はもとより、期末勘定書には敗戦後の国内支店のものがあるため、これまでと比べると対象時期に関して、戦後の混乱期に関する資料が含まれているところに特徴がある。

第6期 170リール セット特価 ¥3,400,000

これまで5期にわたって公開してきた資料群の補足追加的な資料に加え、新たにいくつかの纏まりのある資料群から構成されている。具体的には、第2期に収録した岸資料の追加分、商業登記関係の書類、輸出生糸の補償問題に関わる書類などの特定主題の文書に加えて、本支店間でやりとりされた書簡・電信・報告書類の綴りである「支店来信」である。